
CLANNAD 岡崎と春原

ゆきくま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

CLANNAD 岡崎と春原

【Nコード】

N5796F

【作者名】

ゆきくま

【あらすじ】

アフターのネタバレが入っています。見る分には、注意してください。岡崎が春原の寮にくるお話。

「春原」

急に、誰かから名前を呼ばれた気がした。

ボーっとしていたので、はっ、と目を覚ます。

この声は…

…ああ、会社の上司だ。

そう思っている途中にも、上司は春原春原と僕の名前を連呼している。

何だろう。ちゃんと書類は提出したはずなんだけど。

僕は廊下から上司のいる玄関ホールにと向かった。

「なんですか？」

すこし畏まった声。

「春原」

上司が口を開く。

…くさい。

歯磨きをしてないのか、この上司はものすごく口がくさい。果てしなく。

まあそんなことを言えば、即効クビになるので顔には出さないようにしている。

僕は口をつむぎ、息を止めた。

「はい」

息を止めて喋るのは案外難しい。

一歩間違えばあのくさい臭いが漂ってくる。

「春原、来客が来てるぞ」

上司がくい、と親指で玄関の方を指す。

「……」

「……え？」

思わず口をぽかんと開けてしまう。

…ああ、臭っちゃったよ。

「よう。春原」

「……」

目の前には、

「元気そうだな」

…岡崎がいた。

「………」

「なんだ、感激すぎて声も出ないのか」

「……岡崎、だよな？」

「ああ、当たり前だろ」

…びっくりしすぎて、しばらく声がでなかった。

渚ちゃんの出産前に渚ちゃんと岡崎に会いには行った。

が、まさか岡崎の方から出向いてくるとは思いもよらなかったの…

この状況を把握するのに何秒か時間が必要だったんだ。

「旅行で、丁度この近くを通ったんだよ」
岡崎が言う。

「旅行って…、渚ちゃんど？」

「ああ。汐も一緒だけど」

「汐？」

聞きなれない名前に首をかしげて考える。

「…ああ。おまえと渚ちゃんの子供？」

「まあな」

…その2人と来ていると言っていたが、2人の姿は見当たらない。

「で、2人はどこにいるの？」

「渚と汐は近くの下宿先で休んでる」

「そっか」

「車で移動したからな。すっげー疲れたよ。…汐が、どうしてもっていつからさ」

「……そっか」

「岡ざ…」

…と、口から出かけた言葉を、つむぐ。

「なんだよ？」

「……いや…、ん…、なんていつかさ…」

「なんだよ。早くいえよ」

「……おまえも、本当に父親になったんだなって思ってた」
ぽつりと、本当にぽつりと呟く。

「え……」

「……まあ、な」

「……」

ふいに岡崎が、神妙な顔つきで僕を見る。

「……なに？」

聞いてみる。

「……別に？」

「……あつそ」

まじまじとした顔を続ける岡崎。

「……」
「……」

2人、お互いをじっと見る。

「っぶー! 」

2人同時に、僕達は吹きだした。

…そして。

僕は腹を抱えて、大笑いする。

わけが分からないけど、どんどん笑いがこみ上げてきた。

初めて岡崎と出会ったあの日と今日が、重なる。

…岡崎も同様なんだろう。

息が苦しくなるほど大笑いする。

岡崎も僕も、絶え間なく笑い続ける。

…本当に、誰かが止めに入らなければ永遠に続きそうだ。

今日も、明日も、何年でもずっと…。

僕達はいつまでも……………

「朋也くんっ、様子を見にきたんですが…朋也くん、春原さん？」

ふいに、女の人の声が聞こえた。

自分と同世代くらいだと思う。可愛い声。

…よく、聞き覚えのある声だった。

「まあ。なんではとこのひと、ずっとわらいあってるの？」
次いでちっちゃい子供の声。

「うーん、分かりません。どうしてでしょうか？」

うんうんと首をひねる女性と子供。
…可愛い光景だった。

「…でも。」

女の人が口を開く。

「うん？」

「…2人共、とっても楽しそうですねっ」
「うんっ！」

笑っている

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5796f/>

CLANNAD 岡崎と春原

2010年10月19日14時13分発行